

住宅と室内ドア

Vol. 14

P

第 14 号のポイント

1. 無垢材を使った框ドアは、同じ状態を何十年も保持可能。
2. 良質な室内ドアを作るには、良質な材が必要である。
3. 基本形状がシンプルでもドアのバリエーションが多い。

?

筆者プロフィール

金井田晃央 (かないだあきお)
 1975年 群馬県生まれ
 日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
 筆者ホームページ:
<http://mala-gruppen.com>

スウェーデン北部で育つパイン



木目が緻密で良質なスウェーデン北部産パインの室内ドア

Hejsan! 今回はスウェーデンの室内ドアについてお話しします。室内ドアの構造は大きく分けて二つあります。一つは、無垢材を使った框ドアで、ドアの中身が木のものです。もう一つは、表面に木目の合板を貼ったドアで、中身が段ボールで補強された、いわゆる空洞なものです。ほとんどの室内ドアは後者の構造です。これを見極めるには、ドアをノックしてみます。前者は重い音がし、後者は軽い音がします。

合板を貼ったドアは、使って行く過程で、表面がはげたり、色があせたりしてしまいます。しかし、無垢材を使った框ドアはそんなことがなく、木の色が濃くなるだけで、同じ状態を何十年と保持できます。このためスウェーデンでは、無垢材を使った框ドアが多く用いられています。シンプルなデザインであるものの、その佇まいと質感が、北欧デザインの一つの特徴とも言えるでしょう。

ここでご紹介している室内ドアメーカーは、スウェーデン北部の北極圏近くにあります。どうしてそんなに寒くて、遠いところでドアを作っているかというと、工場の周りに、木目が緻密で最も良質とされるパインがたくさんあるからです。無垢材を使った框ドアの善し悪しは、材の質にあります。良質な材が手に入れば、スウェーデンが得意とする乾燥技術と加工技術で、簡単に良質な室内ドアを作り出せる・・・わけですね。

無垢材を使った框ドア、基本形状はシンプルですが、ガラスの入れ方、樹種、塗装の色など、たくさんのバリエーションに富んでいます。加えて、レバーハンドルのデザインや仕上げもたくさんあるため、意外と選ぶのが大変なのです…。次回は、室内ドアのバリエーションをご紹介します。お楽しみに!

文責 金井田晃央 (筆者へのお問い合わせ先: info@mala-gruppen.com)

Innovatio : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、
 全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。